

シンポジウム「CSII療法1987」

糖尿病治療研究会の中にCSIIに関心をよせる方々によるスタディグループを設け、わが国のCSIIの現状と問題点を検討してきた。満3年を迎えた今回、デュッセルドルフ（西独）で長年糖尿病臨床に携わり、CSIIにも大変造詣の深い 柏木茂生先生 を迎えて、ここにシンポジウム「CSII療法1987」をもつに至った。スタディグループによる今までの成果は、糖尿病治療研究会報やプラクティス他に報告されている。今回のシンポジウム分も含め合本作成を予定し、これらをもってスタディグループの作業は終了となる。このような状況の中で、今回のシンポジウムは現時点でのCSII療法のまとめともなる集いであり、御関心のあるむきの参加を切望する次第である。

プログラム

基調講演

「西独におけるCSII事情」 元デュッセルドルフ大学糖尿病研究所員 柏木茂生

発言

- 1) 「わが国のCSII療法 — アンケート調査から — 」
東京大学第三内科 金沢康徳
- 2) 「CSIIによる血糖コントロールと合併症への影響」
虎の門病院内分泌代謝科 小林哲郎
- 3) 「CSIIによる血糖コントロールと血中ケトン体動態」
帝京大学第三内科 坂本美一
- 4) 「CSII療法の実際 — 適応から医療側の対応まで — 」
東京慈恵会医科大学第三内科 伊藤景樹

司会 稲田登戸病院 伊藤徳治
東京慈恵会医科大学第三内科 池田義雄

記

日時 昭和62年11月27日、午後6時より
場所 山之内ホール
参会に際して 参加費は無料、但し夕食実費1500円を
会場入口にて納入の事

CSII研究会世話人 池田義雄
伊藤徳治
金沢康徳